

市立

いちかわ

# 自然博物館だより

平成30年(2018年)

10-11月号

(通巻 178号)

2018年度

あたりまえの風景に  
あたりまえの生き物に  
あたらしいときめきがある！



自然博物館収蔵写真

コブシ

ごつごつとした実が割れると、中から朱色の種子が顔を出します。種子にはガムのように伸びる糸がついています。

P1 ☀️ いきもの写真館  
コブシ

P2 ☀️ 気にしておきたい市川の自然  
/ 3  
水田雑草

P4 ☀️ 身近なところに花鳥風月  
ツマグロヒョウモン

P5 ☀️ 街かど自然探訪  
本行徳・昔も今も船着き場

☀️ くすのきのあるバス通りから  
セミの鳴き声を聞きました

P6 ☀️ 展示室 飼育生物の話題  
メダカを捕えたオオカマキリ

P7 ☀️ わたしの観察ノート  
7月～8月の記録

P8 ☀️ 行事案内

気にしておきたい市川の自然

# 水田雑草

植物では、「水田雑草」というくくり方があります。水田は、稲作という毎年確実に発生する「攪乱」により維持される特殊な環境です。したがって、そこに生える植物も特殊なグループと見なし、くくって呼ぶのです。

## かつては文字通り「雑草」だった

草取りは、稲作全体の作業の中でも重労働と言えます。実際にたずさわった人には、あまりいい思い出はないかもしれません。少しさぼると、田んぼはコナギやイボクサの葉でびっしり覆われ、あぜにはヒメクグやコブナグサが茂ります。イネそっくりのタイヌビエは、稲穂に混じって「どうだ」と言わんばかりに穂を伸ばします。草取り器はもちろん、除草剤によって軽減された労苦ははかりしれません。

しかし、田んぼに生える雑草は、浅い水辺から湿地へ移行する遷移の初期段階にだけ生える植物です。水が入らない乾いた土地では育つことができず、大型の草やヨシが繁茂する湿地でも競争に負けて消えてしまいます。

稲作の作業が毎年繰り返されることで維持される「田んぼ」は、人間の営みによって維持される「はかない環境」です。ですから、田んぼが休耕され放棄された途端、それまではびこっていた水田雑草は消えてしまいます。洪水や土砂崩れなどで一時的に発生する「田んぼのような環境」に依存することになりますが、治水が進んだ市街地では現実的ではありません。

## 市川市内では、すでに絶滅危惧状態

田んぼがほぼ消滅した市川市内では、水田雑草も絶滅危惧種並みの存在です。かつて田んぼだった場所を掘り返すと現われ

ることもありますが、それは一時的です。震災で陥没した江戸川河川敷ではアゼムシロが突如出現しましたが、植物群落の遷移に合わせて消えていく運命にあります（今回咲いた花が結実して、新たな埋土種子は供給されると考えられます）。

大野町4丁目の「小川再生親子ふれあい農園」は、むかしから継続されてきた農家のかたの田んぼと、教育水田として休耕田を復田した場所があり、毎年、稲作が行なわれています。そのため多くの水田雑草が生育し、市内最後の水田雑草群落と呼べる場所になっています。ただ、継続されている田んぼと新たに復田された田んぼでは見られる植物に違いがあり、継続されている田んぼのほうが種類は豊富です。スズメノトウガラシのように、継続された田んぼでしか見られない種類もあります。

## 長田谷津での取り組み

長田谷津（大町公園自然観察園）では、水田雑草の復活を視野に入れた2つの取り組みを進めています。ひとつは文字通り田んぼの復元です。今年から本格的に取り組み、アメリカアゼナやアゼガヤツリなどが復活しました。もうひとつは湿地全体の草刈りで、作業にともなう攪乱によってチョウジタデが復活しました。長田谷津では水田雑草のタネがかなり残存していると考えられます。それらが生きているうちに復元させることが急務です。



左：アカバナ、中：アゼムシロ、右：イボクサ  
 ※アゼムシロは震災で陥没した江戸川河川敷で埋土種子が発芽したもの



左：オモダカ、中：キクモ、右：コナギ  
 ※キクモだけ撮影地は船橋市だが、3種類とも大野町のふれあい農園で確認している



左：スズメノトウガラシ、中：チョウジタデ、右：ハッカ  
 ※スズメノトウガラシは、大野町のふれあい農園の限られた田んぼだけに自生



左：ミズニラ、中：ミズワラビ、右：ムラサキサギゴケ  
 ※ミズニラはかつて柏井町の水田にあったが、水田ごと消滅した



ツマグロヒョウモン

## 身近なところに花鳥風月

当館学芸員の自宅の庭で出会ったさまざまな生き物を  
このコーナーでは紹介しています。

暑かった今年の夏、

庭のハイビスカスは毎日、よく咲きました。

真っ赤な花で蜜を吸う

ナガサキアゲハやクロアゲハを狙いましたが

そう都合よくとまってはくれません。

きれいに撮れたのは

緑のカーテンの重しの袋にとまる

ツマグロヒョウモンでした。

朝日を透かした姿。起床して30分後に撮影しました。



# 街かど自然探訪

おじゃまします!

ほんぎょう とく

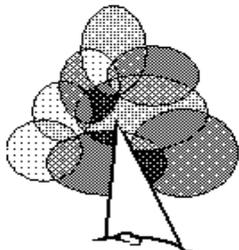
## 本行徳・昔も今も船着き場

旧江戸川沿いの常夜灯公園に行きました。江戸時代は船着き場だったところで、常夜灯は船のための目印です。いまでも緊急用船着場が整備されています。公園なので堤防を越えて水辺に近づくことができ、草で青々とした土手は気持ちがいい空間でした。

旧江戸川は、江戸川放水路と違って上流から来た水を東京湾まで流します。そのため、アユやウナギが遡上や降海することで知られています。



△ 旧江戸川沿いにある常夜灯公園  
上流方向に向かって撮影。  
白い道は、堤防の最上面に整備されている。



くすのきのあるバス通りから No.120

## セミの鳴き声を聞きました

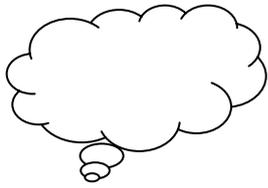
今年は、5月から、夏のような暑さと、短い梅雨、間に冷え込む日がありました。7月4日、ニイニイゼミが富貴島小で鳴き始め、中旬にアブラゼミ、30日にツクツクボウシが鳴き始めました。ツクツクボウシの鳴き声を聞き、「夏休みの宿題をやらなきゃ」という焦りがよみがえり、今年は前倒しなのでしょうか。

お盆休みに東京湾岸沿いに車で観音崎まで行きました。「大田市場の隣の公園にクマゼミがたくさんいる」と数年前、自然博の方から聞きました。物

流が少ないこの期間なら埠頭や工場地帯を抜けられるかも、と行ってみると青海、大井の辺りでもたくさん鳴いていました。市川市では、大野の去年とは少し離れたところで鳴き声を聞きました。

庭のヒガンバナが咲いているのに、ネムノキが小さな花をつけました。電線まで伸びてしまったヤブガラシの花にアゲハが、葉にはスズメガの幼虫がいます。久しぶりに見たカラスアゲハはきれいでした。空き地でシオカラトンボのメス？を見かけました。

(M. M. )



# 展示室

No.22

## 飼育生物の話題



### メダカを捕えた オオカマキリ

自然博物館には、建物の外（3階）に小さな展示スペースがあります。そこではアサザやジュンサイなどの水草の栽培、絶滅危惧種フジバカマの栽培、オオムラサキの飼育などを行い、合わせて金魚とメダカ（市販のヒメダカ）を小型のプールで飼って展示しています。

屋外なので自然の要素が混じります。アサザのプランターからオオシオカラトンボが羽化したり、逆にせつかく羽化したオオムラサキがクモに食べられたりしました。何故か、ピンク色のツユクサが現われたのも驚きでした。展示していたニホンアカガエルのオタマジャクシを放したら、カエルになって数年後にアサザのプランターで産卵したこともありました。

そして今夏、写真のようなシーンに出会いました。メダカのプールに乗せてあるフレーム上で、オオカマキリがおいしそうにメダカにぱくついていたのです。水面上に位置するという状況は自然界ではないことかもしれませんが、オオカマキリの戦闘能力の高さには改めて驚かされました。

※「ナショナルジオグラフィック」誌 Web 版に、カマキリが魚（グッピー）を捕食することが観察され学術誌に掲載された、との記事がありました。科学者も驚く観察なのだそうです。詳細は同誌を！

# わたしの 観察ノート

## ◆長田谷津より

- ・ハシブトガラスが幼鳥を連れて来ていました(7/2)。幼鳥はまだ警戒心があまりなく、手の届きそうな距離まで来てしまい親鳥が慌てていました。
- ・小さなモクズガニがたくさん取れました(7/15)。東京湾から遡上してきていると思われます。

以上 稲村優一(自然博物館)

- ・夜、自然観察園を歩きました。園路脇の水路で水音がしたので懐中電灯をつけてみたら、可愛らしい子ダヌキがいました(7/20)。今年も家族連れが住みついているようです。
- ・ホテルを見るために自然観察園へ続々と人が向かう中、通路の上のシラカシからフクロウが飛び出しました(7/22)。ふだんと違う騒がしい夕方に、逃げ出したようです。
- ・春にオオタカがよく見られた斜面林の上をサシバが低空で旋回していました(8/12)。長い翼が格好よく見えました。

以上 金子謙一(自然博物館)

## ◆大町より

- ・飼育動物のエサ用ダンゴムシを捕まえていると、一般的なオカダンゴムシの他に別の種類が混じっていることに気づきました(7/29)。詳しい人に見てもらおうと「トウキョウコシビロダンゴムシ」と教えてもらいました。なかなか見ることが難しい在来種のダンゴムシがこんな身近にいたとは驚きです。数万匹に1匹といわれるアルビノのオカダンゴムシも見つけました(8/11)。

## ◆大野より

- ・朝、市川大野駅からクマゼミの声を聞きました(8/10)。東京湾沿岸部を中心に分布を広げているようです。

以上 稲村優一

## ◆真間山より

- ・南側斜面林でツクツクホウシの鳴き声を聞きました(7/26)。厳しい暑さの中ですがいつもよりちょっと早いような気がしました。夏のスタートが早かったせいでしょうか。
- ・連日の猛暑が一段落してちょっと涼しくなった朝、南側斜面林で赤トンボがたくさんとんでいるのを見ました(8/17)。秋を感じたのでしょうか。

以上 M. T. さん

## ◆じゅんさい池緑地より

- ・ジュンサイ育成のための池にはいろいろなトンボがいました。真っ赤なショウジョウトンボのほかに、ギンヤンマが目につきました(8/15)。

## ◆江戸川放水路より

- ・トビハゼの巣穴調査が時期遅れになってしまったら、巣穴だけでなく体長1.5cmくらいの稚魚がたくさん見られました(7/24)。小さいなりに、泥の上を跳ねていました。

以上 金子謙一

7月から8月のお盆の頃まで、列島全体が高温に包まれたような、酷暑の日が続きました。西進した12号をはじめ台風は4個も本州に上陸し、西日本では大きな被害が出ました。



# 行事案内



## 長田谷津 散策会

お申し込みの必要はありません(雨天中止)。

毎月1回、長田谷津(大町自然観察園)の四季折々の風景を楽しみます。

- ・日時 10月6日㊥、11月3日㊥、12月1日㊥、午前10時～11時30分
- ・集合場所 動物園券売所前 午前10時

## 季節を感じる 散策会

お申し込みの必要はありません(雨天中止)。

詳しくは博物館に直接おたずねください。

テーマ	日時	集合場所
秋の田んぼ	10月14日㊥午前10時～11時30分	動物園券売所 午前10時
クロマツのある街なみ	12月16日㊥午前10時～11時30分	11月以降に お問い合わせください 午前10時

## 長田谷津ボランティア

**湿地の環境整備をお手伝いして下さいますか。**  
(雨天中止)

- ・日時 10月28日㊥、11月25日㊥、12月23日㊥ 午前10時～12時
- ・集合場所 観賞植物園入り口 午前10時
- ・はじめて参加される方は…湿地の中に入る作業もあります。作業内容や身支度、駐車場などについてご案内いたしますので、ご面倒でもまずは博物館にお電話でお問い合わせください。

**野草名札付けをお手伝いして下さいますか。**  
(申し込み不要・雨天中止)

- ・日時 10月7日㊥、11月4日㊥、  
(12月～2月はお休みです)  
午前10時～12時
- ・集合場所 観賞植物園入り口 午前10時
- ・自家用車をご利用の場合は、博物館までお電話でお問い合わせください。

第30巻 第4号 (通巻第178号)

平成30年10月1日 発行

編集・発行/市立市川自然博物館  
(市川市教育委員会生涯学習部)

〒272-0801千葉県市川市大町284番地

☎047(339)0477

<http://www.city.ichikawa.lg.jp/shisetsu/haku/>